

まず彼らが向かったのは「クリエイション・コア東大阪」。03年に大阪府、東大阪商工会議所、財団法人大阪産業振興機構が協働で立ち上げたこの施設は、「大阪東部地域の中小企業の新しい技術や製品の開発、販路開拓をサポートするこ

地域ぐるみで作り出すものづくりの技術

今回、日本に研修で訪れたのは、各コースの計画立案、実施に携わる産官学の指導者たち。プロジェクト終了後も彼ら自身の手で継続していきけるよう、日本の現場からアイデアを得てもらうことが目的だ。

その内容は、インドのビジネスマンを対象に、シニア管理職、若手管理職、社長、中小企業育成の4コースに分かれて、それぞれの立場に必要な経営のノウハウを学ぶというもの。新製品のコンセプトづくりから製品販売後のサービスまで、日本の製造業をモデルに、ものづくりの総合的なノウハウを伝えている。



ミュージアム夢工房「技術文化館」には、自社の製品のみならず、日本の古き良きモノが展示されている。「モノを大切にすることをはぐくんではほしい」と佐藤さん

とが目的です」と、財団法人大阪産業振興機構の田中佑二郎さんは説明する。

1階の常設展示場には、東大阪を拠点とする約200の中小企業のブースを設置。まさに、歯ブラシからロケットを象徴するように、繊維衣料、自動車部品、化学品、建築材料、航空・宇宙関連など、あらゆる分野の技術や製品が紹介されている。「やはり日本の技術力は高い。モチベーションが高まりますね」と話すのは、自動車製造メーカーのクマール・プラバシ副社長。田中さんの話を傾けながら、各企業のブースを熱心に見て回る。

また、クリエイション・コア東大阪のウリの一つが、ワンストップサービスセンターだ。ここでは、中小企業の新事業、新産業の創

出に向け、企業間のビジネスマッチングを行っており、国内だけでなく、海外市場も視野に入れた販路開拓や特許活用策についてアドバイスが受けられる。また近畿圏を中心に、大学機関との連携もサポートしている。工業政策・促進局のゴーラヴ・ダヴェ局長は「連携の強化はインドの製造業でも重要な課題の一つ。このようなサービスがあれば、よりよい連携事例をサポートすることができそうですね」と大いに参考になったようだ。

さらに、実際のものづくりの現場、守口市にある山岡金属工業株式会社を訪問。大阪の文化を象徴するたこ焼き器やお好み焼き用の鉄板などの製造で知られる同社は1956年に創業、従業員約60人の中小企業だ。しかし最近では、オンラインカフェなどで使用される「パラソルヒーター」や「エアカーテン」など、時代のニーズを見据えた斬新な商品開発に成功。家庭用・業務用調理機器の専門メーカーとして、著しい成長を遂げている。

同社の敷地内に設けられたミュージアム夢工房「技術文化館」の佐藤勝彦館長から、製品の説明を受ける研修員たち。「このショールームは自社製品を一般公開するためのもの。地域に、そして、世界に開けた企業づくりを目指しています」と佐藤さん。「私たちのような中小企業の強みを存分に生かすた

めには規模が大きすぎてもダメ。従業員一人一人に責任を持って仕事をしてもらいたい。」

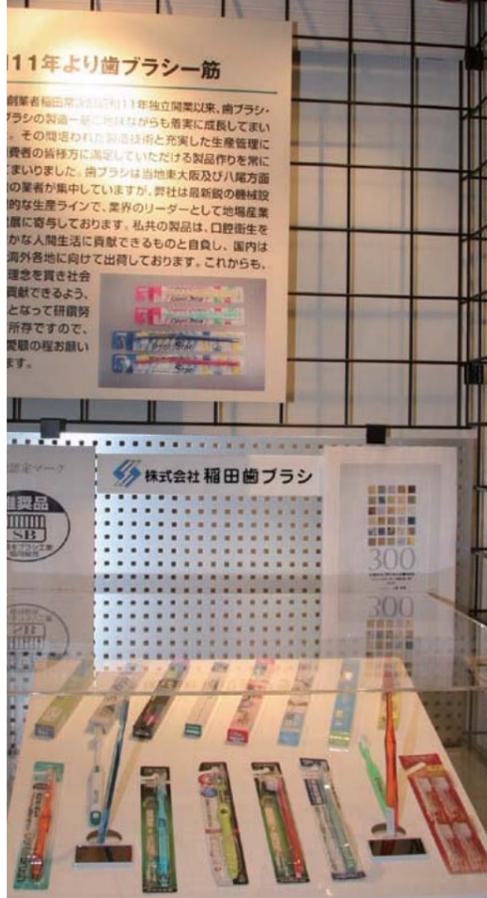
インド経営大学院大学カルカッタ校のシエカル・チョードリ学長は、「インドの製造業は、これから競争力を強化していかなければなりません。持続的なビジネスを展開するためには有能な人が必要。日本のものづくりの成功は、経営者のリーダーシップにあるんですね」と再認識したようだ。

東大阪の「職人魂」に触れたビジネスリーダーたち。産官学が一体となり、新たなものづくりの時代が今、インドで動き出した。

山岡金属工業の佐藤さん(左)の説明を受けながら工場を視察。「中小企業でもここまで競争力をつけることができる。私たちが自分たちの製品に誇りをもって頑張りたい」と研修員たち



クリエイション・コア東大阪の常設展示場には、「東大阪ブランド」と銘打って、地元企業のさまざまな技術・製品が紹介されている



東大阪 from HIGASHI OSAKA 町工場の競争力を インドの産業界に

日本随一のものづくり技術が集積する東大阪市。
地域が一体となって推進してきた成長の戦略を学ぶべく
インドから研修員がやって来た。



歯ブラシから ロケットまで

一本の小さなネジにも、何十年にもわたる発明の苦勞がある。電化製品や自動車など、世界有数の「ものづくり大国」として知られる日本。世界に通用する「モノ」を生み出すべく、その影では、小さな町工場の職人たちが懸命に努力を重ねてきた。

日本のものづくりの舞台の一つ、技術力の高い中小企業や町工場が集積しているのが、大阪府東大阪市を中心とする地域。面積に対する工場の割合は全国1位。歯

ブラシからロケットまで」と評されるほど、これまで、多種多様な技術・製品を生み出してきた。

1月下旬、この日本を代表するものづくりの町に、経済成長著しいインドから研修員たちがやって来た。彼らは、JICAが2007年からインドで実施中の「製造業経営幹部育成支援プロジェクト」に携わる政府・大学、企業の代表者たち。日本の製造業の経営方法を学ぶため、中小企業のものづくりの現場などを視察した。

インドは、アジアをけん引する経済発展を遂げるべく、「製造業の競争力強化」を最重要課題の一つ

企業ブースを熱心に見て回る研修員たち。「ゆくゆくは、日本の企業とも連携して事業を進められれば」